

紹介事例① (最先端のセキュリティ技術で新たなビジネスを開拓している事例)

国内初“顔認証ウォークスルー型”無人店舗システム

ダイワ通信(株)

(本 社) 石川県金沢市
(資本金) 1 億円 (従業員数) 102 名
(業 種) 情報通信業



(企業概要)
防犯カメラの開発販売などのセキュリティ事業、通信機器の販売などのモバイル事業を展開。

開発の経緯

- 少子高齢化などによる過疎地域での人手不足の深刻化を何とかしたい。
- コロナ禍において、非対面・非接触で買い物を済ませたいという消費者ニーズの高まり。
- これまで防犯カメラの開発等で培ってきたAIカメラと顔認証の技術を最大限駆使し解決に取り組む。昨年開発した体温検知器は国内シェアトップ3に入る。

システム概要

- 体温検知機能付きの顔認証で入店から決済まで完了するウォークスルー型の無人店舗システムは「国内初」(システム名「FACE FREE〜Motte ke!」)
- 事前に専用アプリに顔写真とクレジットカードを登録すれば、店舗入り口の顔認証端末を使って顔パスで入店可能。店内に設置された多数のAIカメラによる画像認識機能と荷重センサー棚により、誰がどの商品を取ったかを認識。商品を持って退店するだけで自動でクレジットカード決済が完了。



(写真提供：ダイワ通信)

効果①顧客の利便性向上

- 顧客はレジ精算やバーコードのセルフスキヤンがなくなり、レジの待ち時間が解放される。
- 財布やスマートフォンを持たずに手ぶらで買い物ができる。



効果②店舗の生産性向上 (省人化、効率化)

- 店員は専用BOXで商品をスキャンして、画像や重さを登録し、陳列。店内で人手がかかるのは品出し業務のみのため、省人化による人件費削減に繋がる。
- これまで店舗を閉めていた夜間に本システムを稼働させることで、24時間営業が可能になる。
- 管理者は専用アプリで在庫・販売状況をリアルタイムで把握できるため発注などの業務効率が向上。
- 顧客の買い物履歴や買い物動線など様々なデータが分かりやすく可視化され、より合理的な商品選定や配置が可能に。

効果③感染症対策、防犯対策

- 感染症対策として、入店時、顔認証と同時に体温も計測し、一定以上の発熱を検知した場合は入店ゲートを開けない仕組み。密回避のため、入店人数を制限する設定も可能。
- セキュリティ事業を展開する企業として、防犯対策を重視。退店時に自動で決済されるため、盗難リスクなし。

社内に実証店舗を設置し検証中。すでに多数の問い合わせがあり、今年度中に10店舗への導入を目指す。

II. 事例紹介① — 従業員を重視し、ものづくりを楽しめる環境づくりに積極的に投資 —

中村留精密工業(株)

(本 社) 石川県白山市 (創業) 1949年
(資本金) 3億円
(売上高) 195億円 (2020年3月期)
(従業員数) 約600名



- ・工作機械(複合加工機)の製造、販売。積極的に海外に進出。世界55か国で販売実績があり、複数の国でトップシェアを獲得。輸出比率70%以上。
- ・複合加工機を操作するためのソフトウェア開発も自社で行う。自社のシステムは基本的に内製化している。
- ・生産量は海外向けを中心に回復し、工場はフル稼働。今後、工場の増設も検討。

1. 取組の背景

- 株主よりも従業員を重視し長期的視野で経営するために、あえて上場しない方針。「ピッグカンパニー」ではなく「グッドカンパニー」を目指す。
- 社員の満足度を大事にしており、「ものづくりを楽しみ、集中できる環境づくり」に積極的に投資する。

2. 社内通貨制度「とめと」

- 2021年5月の社内アイデアコンペで、感謝の気持ちを送り合う社内通貨制度の提案があり、自社で企画、システム開発し同年10月に導入。
- 半年ごとに全社員に対して社内通貨「とめと」を5ポイント配付。「分かりやすい資料を作ってくれた」、「何度も相談に乗ってくれた」など、感謝の気持ちを伝えたいときに、システム上でメッセージを添えて、手軽にポイントを送ることができる。もらったポイントは菓子などのグッズと交換できるほか、数値目標以外の取組として人事評価にも反映される。
- 感謝の気持ちが見える化されたことで、仕事に対するモチベーションアップに繋がっている。また、社員同士でコミュニケーションを取るきっかけもなっている。

(写真提供：中村留精密工業)

3. 資格取得支援制度

- 社員の能力向上を目指し、資格取得のための費用を半額補助、合格した時には報奨金を支給。現在、技能検定資格については243名の技能士がいる。
- 社員の資格取得状況をランキング形式で掲示し、個人の持つスキルを見える化すると共に、やる気を引き出す。



(写真提供：中村留精密工業)

4. 社員食堂「絶景パノラマカフェ」

- 2018年に約8億円を投資し整備。若手社員でチームを作り、近隣企業の食堂に足を運び、内装やメニュー、価格の参考とした。
- パノラマカフェテリアとして、南・北方向が全面ガラス張りで180度見渡せ、天井は白山麓をイメージし石川県産の杉の木で構成されている。
- 社員のICカードで精算でき、食事費用の約40%は会社負担。利用者数は増加しており、社員からは好評。



(写真提供：中村留精密工業)

5. 地域貢献

- 毎年実施していた高校生の工場見学がコロナ禍でできなくなったため、オンライン授業に切り替え、プログラミング体験も追加。一部学生には、作成したプログラムでの加工を工場ですべて体験してもらった。